

低学年用(小学 1～2 年生)ミニ・ラグビー『ルールと用語』

■ プレーをする為の条件

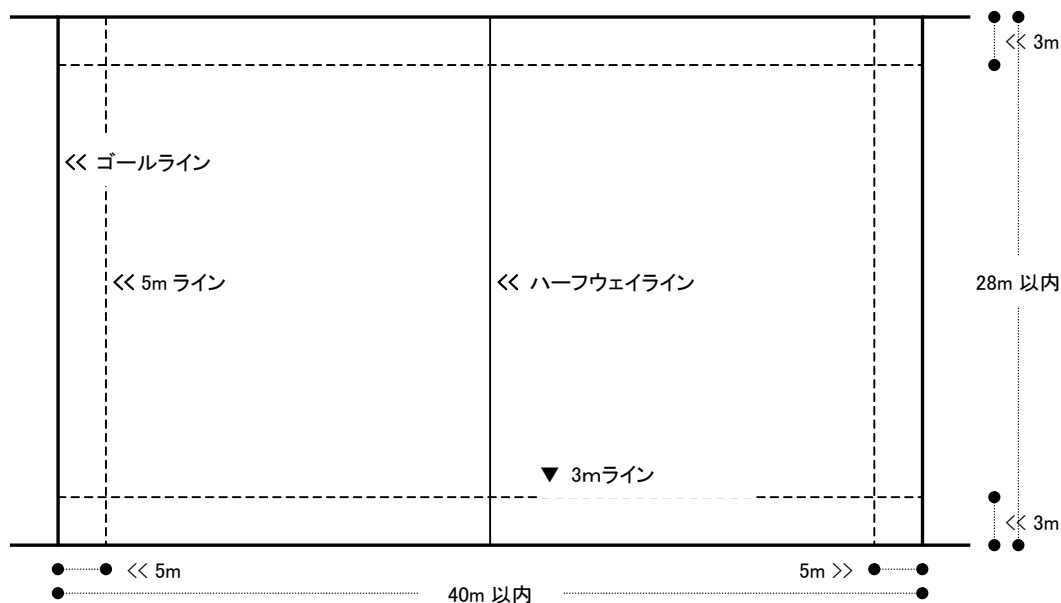
- ① 健康状態(各人の当日健康状態の申告と確認)
- ② 服装(ジャージ・ヘッドキャップ・パンツ・ストッキング・スパイクの装着)
- ③ 指の爪、頭髪、水筒持参等の確認
- ④ 大きな声で礼儀・挨拶・マナーの励行
- ⑤ 時間の厳守(約束の遵守) 試合・練習中の無駄な時間を排除する。

■ ミニ・ラグビー競技規則

1. チーム

- * 合計 5 人(フォワード 1 名・ハーフバック 1 名・バックス 3 名)で構成する。

2. 競技場



3. 試合時間とボール

- * 10 分ハーフ以内とする。 ※ボールは 3 号

4. 競技方法

① キックオフ及びドロップアウト

- ・キックオフ、ドロップアウトは行わない。代わりにキックオフはハーフウェイライン中央で又、ドロップアウトは互いのゴールライン中央から5メートルのフィールドオブプレーに入った地点で、タップキックからのパスとする。その時相手チームは、タップキックが行われる地点から、ゴールラインに平行して少なくとも5メートル下がらなければならない。
- ・タップキックをした時点で解消されており、プレーオンである。

② 得点(トライ)後のキックオフ

- ・得点されたチームがハーフウェイライン中央においてタップキックからパスとする。

③ キック

- ・プレーの開始及び再開のためのタップキック以外のキックは禁止であり、これに反した場合は、キックが行われた地点で相手チームにスクラムが与えられる。

④ スクラム

- ・スクラムはフロントロー1人で構成する。
- ・スクラムを組む時、双方のプレーヤーは両足をスクエア(前後にしない)にして、互いに上腕に軽く触れその後穏やかに組み合う。相手ジャージの背中または脇をつかむ。
- ・頭と肩が腰より絶対低くならないように組む。
- ・スクラムが終了するまでバインドしていなければならない。
- ・ボールの投入は無い。代わりにあらかじめプレーヤーの右足元(つま先の前)にボールを保持する
- ・そのボールを右足の裏で後方に押し出すことでプレー再開とする。
- ・フッカーはボールを押し出す時は、確実に後ろに押し出す。又、スクラムを形成するプレーヤーの最後尾の足を越えたときにスクラムは解消する。
- ・ハーフバックのスクラムサイド攻撃は OK である。
- ・防御側のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいるプレーヤーの最後尾の足を通りゴールラインに平行な線である。但し、スクラムから1メートル以上離れたプレーヤーはハーフバックでなくバックとみなされる。従って1メートル以内にいるプレーヤーは最後尾の足の後ろでスクラムに手を付けておく。
- ・防御側のオフサイドラインは、スクラムを組んでいる最後尾の足から3メートル下がったゴールラインに平行な線である。

⑤ ラインアウト

- ・ラインアウトは行わない。
- ・ボールがタッチになった場合、タッチになった地点がゴールラインより5メートル以内の場合はゴールラインより5メートルの地点で、それ以外はタッチになった地点より投入側のプレーヤーが味方にパスを行う。
- ・ボールを投入しない相手側は、タッチになった地点より3メートル下がりボールの投入を妨害してはならない。
- ・タッチになった地点からゴールラインに平行に3メートル以上投げ入れる。ボールが手に触れた時点でオフサイドは解消される。又キャッチしたプレーヤーは、そのまま持って出ても良い。

⑥ ゴールキック

- ・トライ後のキックは行わない。

⑦ ファールプレイ及びペナルティ

- ・防御の際しっかりバインドせずに振り回したり、ボールを持っているプレーヤーをチャージしたり、突き倒したり、タッチラインの外へ突出すプレー、フェンドオフ(腕を横に振り相手を払いのけるプレー)は、いずれも危険な行為であり、ファールプレイである。
- ・全てのペナルティにおいて、反則を起こさなかった側はタップキックによってプレーを再開する。
- ・相手側は反則のあった地点からゴールラインに平行して少低くとも5メートル下がらなければならない。但し、ゴールラインから5メートルない場合は、ゴールラインまで下がらなくてはならない。タップキックするプレーヤーはボールを明確に蹴らなければならない。

補足

- * 各チーム1名のコーチがグラウンドに入っても良い。但し、最後尾のプレーヤーの後方にとどまらなければならない、と共に発言は建設的な意見でありヒステリックに怒鳴ってはならない。
- * タップキック(※)とは、ボールを地面に置き、何れかの方向に蹴ることである。
(※ 手で持ってチョンと蹴るものではない)
- * スクラムは習熟度に応じて、頭を入れないで上腕を掴むハンドスクラムを行う事が出来る。
- * キャバルリーチャージに当たる行為は内容により、ペナルティか相手ボールスクラムとなる。防御側が3～5メートル下がっている事を良いことに、攻撃側が勢いをつけてフラットパス等を受けて突進することは許されない。

■ ラグビー用語を覚える。

1. ノックオンとスローフォワード

① ノックオン

- ・プレーヤーがボールを落としボールが前方へ進む、またはプレーヤーが手・腕でボールを前方へたたき、ボールがプレーヤーの手または腕にあたってボールが前方へ進み、そのプレーヤーがそのボールを捕りなおす前に、ボールが地面に着くか、他のプレーヤーに触れる事を言う。
- ・ノックオンをした時、前にいる味方のプレーヤーがボール処理し利益を得た場合はペナルティ。
- ・この場合反則地点で反則をしなかった方が、スクラムによりプレーを再開する。

(低学年用解説)

- ・密集からボールを捕ろうとする時、パスを受ける時、またはボールを持って走っている時、タックルを受けた時にボールを前に(※)落とした場合を言う。(※前とは相手側のゴールラインの方向を言う)

② スローフォワード

- ・ボールを持ったプレーヤーがボールを前方にパスするか、投げることをいう。

(低学年用解説)

- ・パス、手渡し又は、タックルをされた時にボールを前になげること。
- ・この場合反則地点で反則をしなかった方が、スクラムによりプレーを再開する。

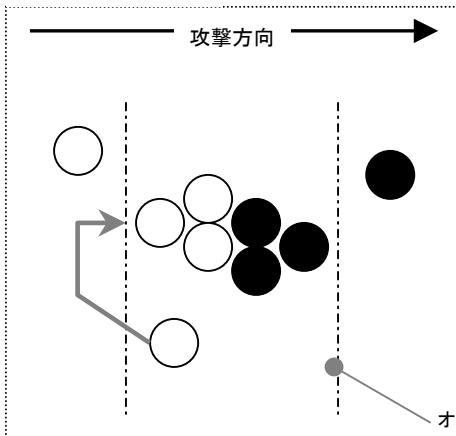
(アドバンテージ)

- ・アドバンテージとは、反則が起きた時相手側に利益がもたらされた場合はレフリーの判断で試合を継続させる上でそのまま続行させる。
- ・アドバンテージはノックオン、スローフォワードにも適用される。

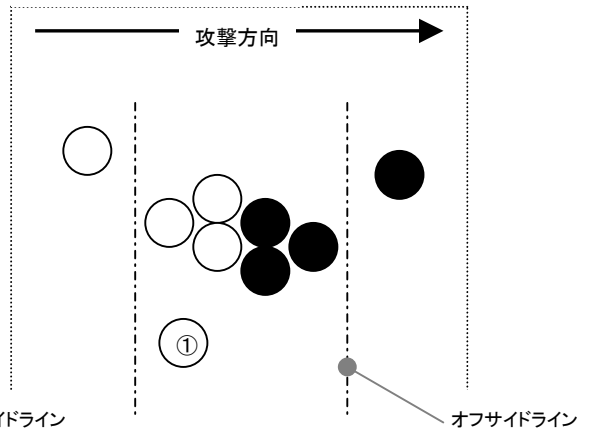
2. モール

- ・ボールを持っているプレーヤーが相手チームの一人またはそれ以上に捕まった時、ボールキャリア側のプレーヤーが一人またはそれ以上のプレーヤーがボールキャリアにバインドしている時にモールが発生したことになる。
- ・全てのプレーヤーは立っていなければならない。
- ・モールを形成している時は、頭と肩は腰より低くしてはならない(フリーキック)
- ・モールは少なくとも三人で構成されていなければならない。

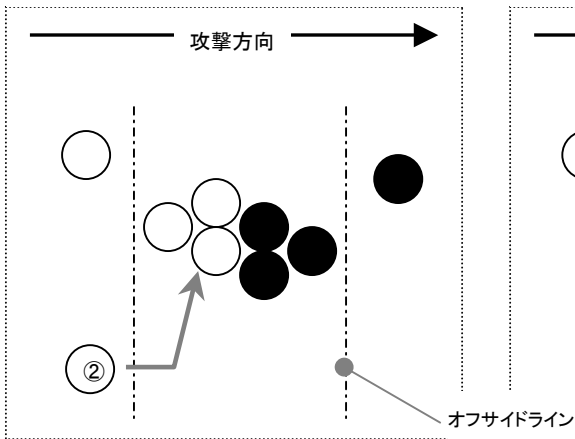
● モールの正しい位置



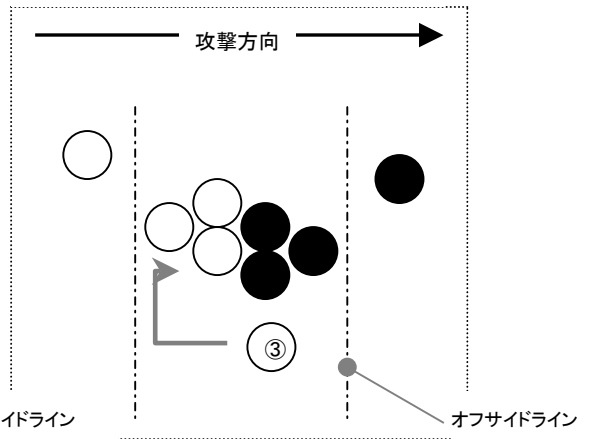
● ①の位置はオフサイド



● ②のモールへの参加角度がオフサイド



● ③のモールへの参加位置がオフサイド



- ・モールの終了は、ボールキャリアがボールを持ってモールから離れた場合か、モールからボールが出た時に終了する。
- ・モールが発生して前進が止まり約 5 秒経過してボールが出ない時、又モールがくずれボールがアンプレイアブルになった時はモールが終了する。この場合ボールを持って攻撃していなかった方のスクラムで試合は再開される。
- ・モールは故意に崩してはならない(不正プレー)

3. ラック

- ・双方の一人またはそれ以上のプレーヤーが立ったままで身体を密着させて、地上にあるボールの周囲に密集するプレーのことである。
- ・ラックに参加しているプレーヤーは足でボールを獲得(手はだめ)すること。(※ラッキングという)
- ・ラックに参加するプレーヤーは、モールへの参加と同様のオフサイドが適用される。
- ・ラックに参加したものは必ずバインドしなければならない。
- ・ラックでボールがフリーの状態になった時は、立っているプレーヤーがボールを獲得できる。
- ・ラックを故意に崩したり、故意に倒れたり、ラック上に飛び込んだり、倒れこんではならない。
- ・ラックの終了は、ラックからボールが出た時、ゴールラインまたはインゴール上に出た時である。
- ・反則以外でボールがアンプレイブルになった時は、攻撃しているチームのスクラムで再開する。

4. タックル

- ・タックルとはボールキャリアが相手チームのプレーヤー(一人または複数人数)によって捕らえられていなければならない。捕らえられていない場合はタックルされたとは言わない。又、タックラーはボールキャリアを捕まえて相手を倒し、自分も倒れていなければならない。

(相手を捕まえても倒れていない、地面から持ち上げられている場合、タックルとは言わない)

地面に倒されるとは、タックルされたプレーヤーが片膝か両膝が地面についた場合をいう。

横たわっているプレーヤーの上に倒れた場合も同様である。

- ・タックルは肩より上にはしてはならない、頭、頸部は危険なタックルである。早すぎるタックル遅すぎるタックルも危険なタックルである。またジャージを引っ張り回してはいけない。
- ・タックルされたプレーヤー
 - ・タックルされたらすぐさまボールをパスするか離さなければならない。そして直ぐに立ち上がるか、ボールから離れなければならない。
 - ・倒れたまま相手プレーヤーのボール獲得の妨げをしてはいけない。
 - ・地上にあるボールを抱え込んで離さない、またボールを手でかき出したりしてはならない。
- ・タックルしたプレーヤー
 - ・タックルが成立した場合は、相手プレーヤーをすぐ離さなければならない。
 - ・タックラーは直ちに立ち上がりタックルされたプレーヤーから離れること。
 - ・タックラーはボールをプレーする時は必ず立ちあがらなければならない。
- ・他のプレーヤー
 - ・ボールを獲得する為には必ず立ってプレーしなければならない。
 - ・横たわっているプレーヤーは相手プレーヤーのボール獲得を妨げてはならない。
 - ・(横たわっているプレーヤーは早く立ち上がり、離れることが義務付けられている)
- ・①～③の妨げたり、義務違反行為は全て不正プレーでペナルティとなり相手ボールのタップキックでプレーが再開される。

② オフサイド

- ・オフサイドとは、プレーヤーが一時的にプレー出来ないことを意味し、且つ競技に参加すれば反則が適用される位置にいることである。
- ・いずれもボールが存在する時点がゴールラインと平行に仮のラインがオフサイドラインである。
- ・オフサイドの位置にいるプレーヤーがプレーの妨げにならない場合は、オフサイドにいるプレーヤーというだけである。
- ・オフサイドの位置で「うろうろしているプレーヤー」は相手のプレーの邪魔になれば反則。
- ・スクラム、モール、ラック及びラインアウトでのオフサイドは各項の規定どおりである。
- ・オフサイドの位置にいるプレーヤーは味方及び相手のプレーで解消される場合がある。
- ・ボールを持っているプレーヤーが自分より前に走りこんだ場合。
- ・自分がボールを持っているプレーヤーの後方に走り込み戻った場合。
- ・相手のプレーヤーがボールを持って5メートル走った場合。
- ・いずれもオフサイドの反則は相手のボールでタップキックによりプレーを再開する。
- ・故意に反則をしたプレーヤーは状況により(事前に注意勧告があった時)退場の場合もある。